

# 給食たより

令和5年12月22日  
江戸川区立西一之江小学校  
校長 川浦 孝彦

<栄養目標>おやつのと리카たを考えましょう

<給食目標>ていねいに食器を扱いましょう

今年度の給食も残り 48回となりました。今年も好き嫌いをなくしっかり食べて、丈夫な体を作りましょう。

さて、1月24日～30日は、学校給食週間です。この週間は、学校給食について考える期間とされています。そこで今回は、学校給食の歴史についてです。今、みなさんが食べている給食と昔の給食を比べると違いはあるでしょうか。



日本の学校給食の始まりは、明治22年までさかのぼります。山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）にある大督寺というお寺に開校された私立忠愛小学校で、貧しくてお弁当を持ってこれない子どもたちのために、食事を提供したのが始まりとされています。その後、全国各地へと学校給食が広がっていききましたが、戦争の影響で中断されてしまいました。

戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するために、アメリカの LARA（アジア救援公認団体）からの援助物資で学校給食が再開されることになりました。そして、昭和21年12月24日に給食用物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」とすることが定められました。昭和25年度からは冬休みと重ならない1月24日～30日の1週間で「全国学校給食週間」とし、学校給食の意義や役割について理解や関心を高めることなどを目的に、毎年、全国でさまざまな行事が行われます。



昭和30年代後半には脱脂粉乳のミルクが牛乳へと切り替わり、コッペパン以外のパンやソフトめんなど、主食の種類が増えていきました。べいはん せいしき どうにゅう 米飯が正式に導入されたのは昭和51年のことです。

<給食委員会で献立を作成しています!>

現在委員会活動で「給食委員会で献立を作ろう!」という活動を行っています。今月も2つの献立が採用されて西一之江小学校で提供されます。